

# 生存科学研究 ニュース

VOL. 7, NO. 4, 1992. 7. 10. 発行

発行：財団法人 生存科学研究所

〒104 東京都中央区銀座4-5-1

聖書館ビル 303

電話 03-3563-3518

## 平成4年度 第1回

東西の健康観・医・薬研究会  
東西の医薬に対する  
薬理学的研究方法の違い

5月14日午後2時より、新たに編成替えされた平成4年度の「東西の健康観・医・薬研究会」が研究所会議室において開催され、(株)ツムラ相談役細谷英吉委員が上記の演題で発表した。

氏は、基礎と臨床、薬剤認可の問題をじっくり検討したいと前置きし、漢方薬評価の実例を引きながら、漢方薬評価の研究には、西洋医学の薬理学的研究から見て、薬の段階、診断の不確実さ、随症治療等の問題は別にしても、プラシボの効果、プラシボの構成、悪化例、アドバースエフェクトとサイドエフェクト、疾患の重症度と薬の量との関係等をどう考えるかという問題があることを指摘し、最後に、伝統薬の試験には伝統的剤形ですべきであることを強調した。

次回は7月10日(金)。

## 平成4年度 第1回

生死と生存研究会

5月15日(金)午後2時より、「生死と生存」研究会が開催され、卜部、大林、河野

の諸委員で、平成4年度における新しい構想による研究開始に向け準備がなされた。

次回は、研究会(勉強会)を7月12日(日)に開催の予定。

## 平成4年度 第1回 会員研究会

これからの医療と診療報酬

5月21日(木)午後1時30分より、平成4年度第1回(通算第2回)の会員研究会が大会議室で、補助席を置く盛況裏に開催され、表記のテーマで座長の帝京大学江見康一教授が発表した。

平成4年度国民医療費の推計は対前年比6.9%増で、過去10年間のなかで最大の伸びである。「国民皆保険」施行から30年を経て、我が国の医療供給は量から質の選択が求められる時代になってきた。従来の医療供給・医療経済体系は抜本的見直しが必要である。現行の診療報酬体系は合理的でなく、早急に検討すべき課題である。

なお、江見教授のこのテーマに関する研究の詳細は、『社会保障年鑑』の巻頭論文「診療報酬の基本問題」として近く発表される。

## 第2回 会員研究会

生存科学からみた

社会システムとライフスタイル

6月18日(木)午後3時より第2回会員研究会が開催され、江見座長から表記のテーマで発表があった。

江見座長は、提出資料に基づき江戸と東京を比較し、大量生産、大量消費、大量廃棄、そして再び大量生産に進む近代文明が資源・環境の壁にぶつかり、方向転換の必要に迫られている今、徹底したリサイクルを図っていた江戸時代のライフスタイルに大きなヒントが見出せることを示した。

その後、江戸時代のメリットとデメリットの両方を考える必要、人口問題が基本であること、家庭の機能の崩壊が問題であること等が討議された。

今回は、会員からの発表または会員の推挙される方の発表を話題とすることとして、会員のアンケートを行う。

### 第1回 人間・文化・文明研究会 近代知の陥穽を考える

5月23日(土)午後2時より、平成4年度第1回(通算第3回)の「人間・文化・文明」研究会が開催され、八千代国際大学高瀬浄教授が表記のテーマで発表した。

現代産業文明は生存とアンビバレントな関係にある。世界は大きなTurning Pointにかかっている。それは構造的変化、制度的変革に直面する歴史の変革の時期であり、それにインパクトを与えるものは冷戦の崩壊、地球環境の危機、世紀末の選択であるが、これらの根底に共通するものは歴史観である。

世界中がIdentityを喪失し、住み分けが崩れた。崩壊した歴史観に変わる新しい歴史観の発見、人間が自然を支配するという従来の自然観の変革、生きていく目的であるところの非物質的側面の重視、等が求められる。

地球の民族が何らかの共存体制を取らなければならない。合理化された社会が完全と考えるのは幻想であり、一定の秩序のなかにカオスを組み込む必要がある。

それが文化であり、文化と文明の関係を考えることが必要である。

### 平成4年度第1回 医業問題研究会

5月26日(火)平成4年度第1回医業問題研究会が開催された。

会議は粕谷委員長を座長に、先ず生存研の常務理事より生存科学研究所の研究体制、現在の研究進捗状況について説明があり、次いでそのような研究のなかにおける本研究会の今後の研究方向について討議がなされた。

今後の研究方向としては、生存・健康・医療という流れのなかでの医業という立場で、高齢化問題、医療費高騰問題等をふまえ、未来の医療・未来の環境を、具体的な予測のできる紀元2010年を目標に設定して考えることとし、「2010年の医療—その中での医業の位置付け」を研究テーマとすることに決まった。

今回は、亜細亜大学筑井甚吉教授の「シミュレーション2010年の産業経済」。

### 平成4年度 第1回 人間関係と社会文化(仮称)研究会

6月23日(火)午後6時より、平成4年度第1回研究会が開催された。

会議では、先ず武見太郎博士が生存科学研究基金設立にさいして書かれた設立趣意書(生存科学について)と、「生存の理法」主要論文集中の生存秩序に関する部分を検討し、武見哲学では未来からの反射で導かれるものが生存秩序であり、その中の人間関係を明確にしなければならないという理解に達した。また、秩序とは決して固定的なものではなく、流動的なものであると理解され、そうした理解の下で、個人の自覚、母子関係、しつけ、家庭等を新しい視点から検討することになった。これを受け、研究会のテーマも名称も『生存秩序と人間関係』とすることが決

定された。

今回は、数学、物理学における「秩序」の考え方をその分野の方から聞く予定。

## 第2回 総合解析検討委員会

5月11日(月)午後5時より鈴木委員長を座長に第2回総合解析委員会が開催され、「地域医療の投入産出分析」について提出資料に基づき筑井委員から説明があった。

コスト・ベネフィット分析では、ベネフィットを金銭に換算して計算しなければならないが、それでは曖昧となる。レオンチェフ教授は、発生した疾病は処理する必要があるものと考え、投入によりその処理が不必要になる分を計算に入れることにより曖昧さを克服する。

試案としては、診療部門の投入産出表を先ず作成し、それをもとに、将来時点における地域医療の必要経費を計算することができるというものであり、基礎的研究ができれば、各地の研究に応用できるはずである。

討議の結果、当面、正確なデータが得られる大分市医師会立アルメイダ病院の診療に関して、大分市医師会との共同研究の方式で投入産出表を作成することから始める予定を決めた。

## 九州プロジェクト研究 第3回別府訪問・第2回大分訪問

5月22日(金)午前、生存研小平専務理事ならびに梅園、中山両常務理事が別府市医師会に伊藤会長を訪問、別府市の医療協議会と生存研との共同研究の可能性を検討した。

また同日午後、大分市アルメイダ病院研修会館において、大分市における地域医療と産業保健との共同体制作りを検討する研究会を開催した。

出席者は上記生存研理事のほか、大分市医

師会松橋会長、杉村理事、大分郡医師会東会長、東大分医師会淵野会長、大分県医師会松本理事、三井造船産業医新貝医師、東芝大分工場総務部松山氏、新日鉄大分製鉄所産業医松本医師、新日鉄君津工場産業医田中医師、筑波大学社会医学系村上教授。

会議では、産業保健一般の現状、地域医療との関わり、地域医療協議会、産業保健委員会の状況、中小産業分野における検診事業の実態等につき検討された。

## 第1回 肝属解析検討委員会

6月20日(土)午後3時より、鹿児島県の肝属医師会病院ならびに肝属医師会を中心とした地域医療の解析・評価・推進のための委員会が開催された。

今回は準備会として、鈴木、梅園、弓倉委員を中心に、集められた資料をもとに検討し、病院や地域医療の推進は勿論重要な課題であるが、同時に過疎化している肝属、大隅半島の活性化が必要であり、鹿児島県全体の視野のなかで考えることになった。次回は肝属医師会病院の今隈院長も参加の予定。

## 第2回 川崎病研究委員会 川崎病研究財団設立準備委員会発足

6月2日(火)午後3時より研究所会議室において第2回川崎病研究委員会が開催された。これは平成3年度の理事会で承認された研究であり、4月3日に第1回の会合を準備会として既に行っている。

川崎富作氏の発見した川崎病の研究、特に原因追及と情報のフォローが今後とも必要であるため、その研究体制を生存研が支援するために研究会を生存研内に設置することとなったものである。

当日、川崎病の疫学、最先端の研究成果等の学術的発表の後、協議により、川崎病研究

推進のための川崎病研究財団の設立準備委員会をこの川崎病研究委員会のなかに設置することとなり、同財団設立準備委員会の発足式もおこない、募金を開始した。

委員は、日本小児医会会長内藤寿七郎氏を委員長に、巷野悟郎日本小児保健会会長、埴賢二東京都小児医会会長、鴨下重彦東京大学小児科教授、柳川洋自治医科大学公衆衛生学教授、川崎富作氏と生存研側として中山常務理事。

武見奨励賞受賞候補者の  
推薦受付を開始

6月4日(木)公益信託武見記念生存科学研究基金の平成4年度第1回運営委員会が開催され、平成3年度の事業報告と収支決算が審議され、了承された。それに引き続き、平成4年度の武見奨励賞授賞につき審議され、例年通り、生存研会員、財団、基金関係者から受賞候補者を推薦していただき、表彰助成委員会において受賞者を選考することに決まった。

すでに関係者には推薦用紙が届けられています。武見奨励賞は生存科学の研究・実践に献身的に取り組んでおられる方に与えられます。相応しい方を御推薦下さい。

研究所日報

- 5月 7日 武見思想の映像化委員会
- 5月11日 常務理事会
- 5月13日 平成4年度第1回編集委員会
- 5月21日 平成4年度第1回理事会
- 6月30日 第2回編集委員会

ハーバード大学武見講座活動報告

報告者 門司フェロー

Takemi Seminar

5/7 /H.Lipanowicz

Takemi Forum

5/18 Traditional Practices Affecting Women's Health in Africa /S.Rich

Faculty Research Seminar

5/4 Health Transition in Pakistan and Senegal /M.Garenne

Final Research Presentations by

Takemi Fellows

5/11 Factors Associated with Teenage Pregnancy in Rural Nigeria /F.Okonofua

5/20 Utilization of Maternal and Child Care Services in Selected Rural and Urban Community in Tanzania /J.Nguma

5/21 The Seeking of Medical Care Among the Poor in Paraiba, Brazil and the Barriers to Community Participation /J.Rodrigues

5/28 Schistosomiasis Control Program in Kenya : From Parasitological Approach to Public Health and Development Approach /K.Moji

6/2 Onchocerciasis : Social Consequences for Adolescent Girls and Women in Rural Nigeria /U.Amazigo

6 /8 Drug Use Indicators : Development of a Standard Methodology /Bimo

6/8 Estimation of Cost-Functions of Secondary Hospitals in Andhra Pradesh /P.Mahapatra

6/9 State, Market and Society : Challenges to Health Reform in Brazil /C.Possas

6/18 Schistosomiasis Control on Mainland Tanzania : Cost-Effectiveness of Chemotherapeutic Strategies /J.Rugemalila